

The background features three large, overlapping blue circles of varying shades (dark blue, medium blue, and light blue) arranged in a descending diagonal line from the top right towards the bottom right. Thin, light blue lines intersect to form a triangular shape that frames the text.

# 環境・社会 報告書

住工房  
森の音

## 目次

代表挨拶	p 2
企業概略	p 3
森の音の取り組み	p 4 ~ 6
風土調査	p 4
県産材の使用	p 5
職人の技	p 6
断熱材などの資材に関する取組	p 6
イベントに関して	p 7 ~ p 8
編集後記	p 9



## 代表挨拶

家を建てるということは、元在る自然を破壊することです。大地には人の手をいれ、山の木は切り倒し、刃物で刻みます。その行為は同時に、自然に対して畏敬の念を払い、長い歴史の中で技術を受け継ぎながら進化してきた「建築」という1つの文化でもあります。

当社は、2001年より、「原点回帰」をテーマに活動を行って参りました。

人と自然の共生。これからの環境の在り方を社員とともに学びなおし、ひとつ見えてきたことがあります。

古き良きものは残したい。最大の敬意を込め、それを延命させること。古民家の研究は、その想いからはじまりました。原点へ戻り、現状を見つめなおす必要があったのです。

古民家から学ぶことは多くあります。地域の素材に感謝し、家を建てる。

人が山に入り、木を切り、刻み、組むという流れの中には、先人たちの知恵がはかり知れないほど詰まっています。

素材を使ったら補うことも忘れてはなりません。使い切らず、存続してゆくこと。

未来の子どもたちへ何を残すべきか。考えて、「業」を行う。

未来へ繋げる、本当の意味で豊かな暮らしが広まることを、私たちは願っています。

今回の岩手大学との交流がきっかけで、改めて自社の「業」のあり方を見つめなおすことができ、同時に自社の強みも再認識することができました。

また、大学生である彼女たちは、我々とは異なる独自の視点を持っており、環境問題・社会問題を改善していくために、自分たちだからこそできることを探り、実行しておりました。そのひたむきな姿勢を知ることもまた、我々の環境に対する意識を高める良い機会となりました。

企業と学生を繋げ、お互いの視点、感覚を共有し、1つの問題に取り組むことは、社会問題改善への新たな切り口に成り得ると感じます。

私たちも古民家から学んだ自分たちの「原点」を忘れず、環境保全、森林の循環など、さらに真摯に取り組んで参りたいと思います。

末筆ながら、彼女たちの今後益々のご活躍を心よりお祈り申し上げ、お礼とさせていただきます。



住工房 森の音

代表取締役 桜田 文昭

## 企業概略

会社名	住工房 森の音
登記商号	(有)美建工業
所在地	本社 〒020-0503 岩手県岩手郡雫石町七ツ森 182-6 TEL. 019-692-4210 FAX. 019-692-4211 ホームページ <a href="http://www.morinone.co.jp">http://www.morinone.co.jp</a> E-mail info@morinone.co.jp
設立	1986年10月24日
役員	代表取締役 桜田文昭 取締役 桜田シゲ子
従業員数	5名
資本金	300万円
事業内容	建築一式 リフォーム 新築増改築 企画・設計・設計監理 内装インテリア 造作 建具 外装 塗装 水周り その他造園 土地建物仲介事業 店舗設計・監理 住宅インテリア等のディスプレイデザイン事業

## 森の音の取り組み

ここでは、森の音の環境および地域社会に関する取り組みを家造りの過程に沿って、ご紹介していきたいと思います。

1

### 打ち合わせ

お客様のご要望をお伺いいたします。

2

### 風土調査

その土地にあった家をつくるため、風土調査を行います  
大手メーカーなどに多くみられるプレハブ構法などは住宅の構造をすでに決めてしまっているため、このようなことはしません。その風土にあう住宅を造ることは、自然のエネルギーを最大限に利用することや、暖房などにかかる電気等のエネルギーを減らすことにもつながります。



3

### 設計

風土調査の結果とお客様の要望（資金計画やプランニング等）を踏まえて、設計をします。さらに細部までデザイン・設計をしてスケッチ・図面などを作成していきます。

4

### 着工

地盤調査結果に基づいて、掘削・配筋をしていきます。

## 県産材の利用

## メリット1 優れた断熱性・吸湿性

木材の利点の1つとして優れた断熱性と吸湿性が挙げられます。木材の断熱性はコンクリートと比べて17倍も高く、約2.5倍も冷めにくいというデータがあります。また室内の湿度をほぼ一定に保つ性質もあるため、湿気の多い日本の風土に合った家を造ることができます。また、さらにその土地の湿度や温度が木材に反映されたその土地の木材を使うことで、さらにその土地の風土に合う家を造ることができます。



## メリット2 体に優しい

その他の木材の性質

- ・光を乱反射させる
- ・室内の音をまるやかに吸収
- ・触感がよく、衝撃を吸収
- ・木から発散される成分は精神安定作用をもたらす

このように、刺激が少ない木材は健康によく、手や足が冷たくならず疲れ方も違うというデータがあり、木製のケージではマウスが長生きしたという実験結果もあります。

## メリット3 森林保護

木を切って森を守るということは一見矛盾しているように思われるかもしれませんが、古い木は二酸化炭素の吸収が悪くなり、新しい木の成長を妨げます。つまり、生物の代謝が悪くなった状態と同じで、森林の劣化が起こるのです。また、日本以外の国から木材を輸入することは、その国の環境を破壊することに繋がります。地元の木を使うことで、地元の環境、外国の環境も守ることができ、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出を削減する国産材の使用は、家を建てるお客様だけで

なく、様々な人の幸せにも繋がっていきます。





## 職人の技

木材には

- ・割れる
- ・かびる
- ・燃える
- ・狂う
- ・耐久性

等の問題が出てきますが、プロの職人さんに任せればこのような問題はほとんど解決できます。近年では、大工就業者数は減少してきてしまっていますが森の音には木のクセを見抜き、これらの問題を解決してくれる大工さんがいます。森の音ではこのような大工さんと一緒にお仕事をする事で伝統的な技を守ろうとしています。



6

## 仕上げ

### 資材の取り組み

森の音では家を建てるために必要な資材は、できるだけ人体に有害な化学物質の使われていないもの、自然の素材を生かしたものを、選んでいます。

#### 森の音でよく使われる資材

断熱材：羊毛や新聞紙

壁紙：紙と木のチップの天然素材で作られた壁紙。漆喰

塗料：植物油と植物性ワックスを使った天然素材だけでできた塗料

ワックス：米ぬかから作られたワックス

7

## 完成

お客様にお引渡しします。

# イベントに関して

森の音は暮らしを提案する会社として、様々なイベントを開催しています。

環境教育の場として、自然と触れ合う場として、家について知ってもらう場として、イベントが開催されてきました。また、地域コミュニティのつながりを深める機会にもなっています。

イベント内容の例

- ・ 県産材を使った木工教室
- ・ さつまいも堀り体験
- ・ 竪穴式住居を利用したイベント
- ・ 地域のお店による出張出店  
などなど



木工教室の様子

様々な取り組みが行われていますが、新たなイベントの場となる「エコビレッジ IWATE」、特に継続的に続けられている「フェアトレード」の取り組み、家づくりと関係が深い「森林整備イベント」をとりあげます。

## 『エコビレッジ IWATE』

森の音では岩手初のエコビレッジである「エコビレッジ IWATE」に取り組んでいます。第一弾としてコンセプトハウス「森の家」が2011年12月に完成しました。森の家は風土に合わせた建築、県産材の利用など森の音が目指した家作りが反映されています。

エコビレッジ IWATE の森の家は、持続可能な暮らしや価値、次世代について考えていく学びの場としてイベント会場となっていく予定。また、希望者が森の家に一泊を体験できるように準備も進められています。今後は畑などが作られ、自然を実践的に感じられるようなエコビレッジを目指して取り組みが進められていきます。





### 『フェアトレードの取り組み』

様々な企画のイベントがあるなか、フェアトレードのイベントは毎年数回開催されています。フェアトレード商品を扱っているお店「おいものせなか」さんにイベントで出店していただいたり、森の音でフェアトレード商品の展示会を開催していただいたりと、フェアトレードの取り組みも行っています。

フェアトレードとは、発展途上国の社会的・経済的に立場の弱い人々が生産した商品を適正な価格で買い取り、経済的自立を支援する活動です。農薬に頼らない農法や、手仕事によって作られた商品を扱うことで持続可能な社会の実現を目指しています。森の音では、フェアトレードを通して身近なものがどこからきたのか、誰が作ったものなのか、ということを考える機会としています。

### 『森林整備イベント』

参加者に木を伐採する現場を見ていただいたり、苗木を植える体験をしていただくイベントです。このイベントを通して森について、家に使われる木について知ってもらい、森の木の大切さを実感してもらうことを目標としました。苗木を植えることによる森林整備という面で環境に配慮した行動ですが、参加者に森の様子を知ってもらう環境教育としての意味合いも強いイベントです。



伐採の様子



植林作業

## 編集後記

今回、森の音さんの環境・社会報告書を一緒に作成させていただいて一番大変だったのは、知識不足でした。何冊も本を読み、どのように家は建てられ、どのような材料を使うのか、調べるのは大変でしたが、色々調べたことで木造住宅の良さ、住宅にこだわることの大切さをより深く理解することができたと思います。学生ではなく法人が行う環境活動を知ることができた点でこの活動はとても貴重なものとなりました。

(岩手大学人文社会科学部 2年 浅沼千裕)

森の音さんでは環境に配慮した活動は単に家づくりという範囲に限らず、イベントや地域との連携など幅広く取り組んでおり、広い視野で環境について考えていらっしゃる企業なのだと感じました。環境・社会報告書作成のなかで、各取り組みには森の音さんの思いや願いがあることを知り、環境に対する意識の持ち方を学ばせていただきました。環境・社会報告書作成にあたって、森の音さんにはお忙しいなか丁寧に対応していただきました。本当にありがとうございました。

(岩手大学人文社会科学部 2年 鷹屋敷ありさ)

## 参考文献

「健康な住まいを手に入れる本」

編著者 小若順一・高橋元・相根昭典 発行者 大江正章

発行所 コモンズ

「木の家づくり」

(財) 林業科学振興所 編 発行所 海青社

この環境・社会報告書は岩手大学の講義「環境マネジメント実践演習」の一環として、住工房森の音様と岩手大学の学生によって作成されたものです。